

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：八女が好き8C！やめスマ研究所

## 事業名称1：魅力MaaSやめ

### あらすじ

八女市の面積は県内で2番目に広く、中心部と旧市町村で人口減少の格差があり、山間部における交通機関利用者の減少から地域交通インフラの整備も難しく悪循環に陥っている。市としても乗り合い型タクシーである「ふるさとタクシー」を運用しているが、事業費に対してその成果が見合っていないような現状がある。また脱炭素への取り組みも急務であることから、市でもEVに準じる環境配慮車両の導入も検討されている。

### ストーリー

自治体と民間の共創によるグリーンスローモビリティ事業やEVカーシェア事業の実現に向けて2つの軸で事業を実施していく。1つ目は各イベントでEVから放電した電気を活用し、市民にEVの認知向上を図るとともに、未来の子供たちへの教育機会をつくる。2つ目としては、実現可能性と持続可能性を鑑みた際にまずは地域内企業の福利厚生として社員にEVを付与し、休日は会社においてもらうことでこれをカーシェアできる状態にする。こうすることで企業はU・Iターンの際に障害となる自家用車の購入というリスクを低減しながら積極的に採用に活用ができるとともに、自治体としてもこれを活用し観光客等に案内ができる状態を創ることが出来ればその費用負担で企業も導入がしやすくなることが想定できる。このような事業を通じて物流や移動に困らなく、外出しやすい八女が環境に配慮し、災害が起こった際の安全も担保された街になっている。

### 事業の骨子

### 現時点で想定される 課題・ボトルネック

①ありたい未来	物流や移動に困らない、外出しやすい八女。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通インフラ整備</li> <li>・充電インフラ整備</li> <li>・電源開発</li> <li>・EV車、EVバスの循環</li> </ul>
②課題	面積が広い（482.44 km <sup>2</sup> 、福岡県では北九州の次に面積が広い）、人手不足（人口：1985年84,556人→2015年64,408人 ▲23.8%、生産年齢人口：1985年64.3%→2015年54.8% ▲9.5%）	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	自然豊かな広大な八女で超便利に暮らす。	
④地域資源	太陽光施工事業者、地域新電力会社、再エネ・EV啓発イベント実施実績（2回）、	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	EV自動運転、EVカーシェア、EVライドシェア、グリーンスローモビリティ	
⑥担い手（Who）	地元交通会社、運輸会社、運転手とされる人	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	エネルギーの地消・地産によるエネルギー資金の地域内循環（2016年に53億円が電気代として流出）。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通会社</li> <li>・土木建築会社</li> <li>・EPC会社</li> <li>・電力会社</li> <li>・市役所</li> <li>・社会福祉協会</li> <li>・自動車整備会社</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	移動（運搬）に困らない街、脱炭素地域、災害に強い街、共助の街	

事業名称 2 : 八女の人事部		
あらすじ		
「八女に仕事がないから都会で働きます。」と高校生が言っており、何が原因なのか考えるきっかけになった。少なからず採用の枠はあるが、定着しないという課題もある。		
ストーリー		
地域特化型採用プラットフォーム「モトムツ」(2023年12月ローンチ) のサポートをしながら、採用プラットフォーム内で掲載する企業に「八女の人事部への参画要請も行う。ここでは参画企業における各年度の新入社員すべてを同期とみなし、教育やイベント等で交流を図ることで離職率の低下を目指しつつ、地域の若者が地域の企業に務めたいような魅力ある企業づくりを地域ぐるみで行っていく。そのために経営塾やキャリアアップ教育などの入社後のフォローアップ体制も八女の人事部で充実させていながら、同じ年に八女の企業に入社したみんなが同期になっていく。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	若者が八女で働き、八女に住み続けたいと思える未来を創りたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育、フォローアップしてくれる人材</li> <li>・運営資金</li> </ul>
②課題	地域の魅力ある企業が認知されていない。 入社後の教育フォローアップ体制が充実していない。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	地域人材や地域企業の採用経費の域外流出を防ぎ地域を元気にするため。	
④地域資源	地域の企業、若者、地域愛、地域特化型採用プラットフォーム「モトムツ」	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	経営塾、キャリアアップ教育、交流会等各種イベント	
⑥担い手 (Who)	若手経営者	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	採用事業費の地域内循環、Uターン・Iターン就職が増え企業が若返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政</li> <li>・地域の企業</li> <li>・団体</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	企業が盛り上がり、地域が盛り上がる。他企業の同期ができ、楽しい学びの場ができる。	

### 事業名称 3 : 八女の楽校

#### あらすじ

八女市には市民が誇りに思えるような素敵な資源が幅広く存在している。だが、近くにあるからこそ悪い意味でその状況が当たり前になっており、その資源を維持する人手が不足するような状況が当たり前になっており、その資源を維持する人手が不足するような状況が発生している。また、市内に大学が無く、令和2年に実施された八女市内及び近隣高校に通う高校生への調査では、45.8%の高校生が高校卒業後は「八女を出ていくつもりである」と回答している。その内77%は進学を理由としている。

このような現状がある中で、八女の子供たちに「八女で暮らし続けたい」、「いつかは八女に戻ってきたい」等、八女を人生の選択肢として持ってもらうためにも、高校を卒業するまでの18年間で八女のことを学べる学校を創りたい。

#### ストーリー

八女のこと（伝統工芸、自然、人、歴史、文化、芸術、仕事等）について八女で楽しみながら学べるコンテンツを構築し、これに関わる従事者の方を先生に据えて事業を実施し、その様子をSNSで発信することで認知を向上させる。さらにウォークラリー等のイベントも重ねて開催することで地域内に地域のことを楽しく学べるイベントが持続的に生まれ続ける状態を目指し、様々なつながりをつくっていきながら事業自体の持続可能性も高めながら、八女の人々が八女に対して誇りや愛をより持てるようにしたい。

事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック
① ありたい未来	いくつになっても選択肢が無尽大にあり、若者が戻ってきたいと思える八女。次の世代に豊かな八女を残していける状態。	イベント等の事業への動員 コンテンツ構築のノウハウ 資金繰り
② 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八女の情報を知る機会が少ない</li> <li>・八女の魅力に気づける機会が少ない</li> <li>・地域内での連携</li> </ul>	
③ なぜこの事業をやるのか (Why)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八女が地元だから</li> <li>・八女の人々が心身健康でいるため、地域社会の健康のため</li> </ul>	
④ 地域資源	伝統工芸、自然、人、歴史、文化、芸術、地域企業	
⑤ 商品・サービスの具体的な内容 (What)	八女を学べるボードゲーム（双六等）や地域の魅力を再発見するウォークラリー等の楽しみながら体験し学べるコンテンツ	
⑥ 担い手 (Who)	八女の学校メンバー、同事業で八女のことを学んだ小・中・高校生	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦ 事業で生じる循環	同事業で学んだ子供たちが、学んだことを次の世代の子供たちに伝えていく学びの循環	伝統産業従事者・企業行政
⑧ 事業で生じる成果	住民が八女に対しての誇りや愛を持ち、八女の伝統や産業を継承していく	